

多古町立多古中学校における研究の全体構想

平成16～18年度 文部科学省指定：「キャリア教育推進地域指定事業」

○多古町研究主題 夢や希望を育み自己実現をめざす児童生徒の育成
～小・中・高等学校が連携したキャリア教育を通して～



多古町立多古中学校

1 研究主題
一人一人のキャリア発達を促す
学習プログラムの開発と実践のあり方
～ 小・中・高等学校の連携と
地域交流を通して ～

2 研究内容

- (1) 個々の生徒に勤労観や職業観を育てるための学習プログラムの開発と工夫をする。
- (2) 地域人材の活用及び地域交流事業の内容と進め方の改善を図る。
- (3) キャリア教育の視点における授業研究と実践の推進を図る。
- (4) 「読む・書く・聴く・話す力」という学習の基礎の定着を図るための指導法を工夫する。

キャリア教育全体計画Ⅱ
(地域人材の活用)

キャリア能力を育てる学習プログラム
《中学校》

4つの能力に視点

↓

・教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間をリンクする能力の育成

勤労観、職業観を育む学習プログラム
《中学校》

読む・書く・聴く・話す力の涵養

学年	目標	内容	評価	留意点
1年	読書習慣の定着	読書感想文の作成	読書検定	読書習慣の定着
2年	読書習慣の定着	読書感想文の作成	読書検定	読書習慣の定着
3年	読書習慣の定着	読書感想文の作成	読書検定	読書習慣の定着

本校の取り組み

夢や希望に向かって前進する姿

3年 道セミナー 進路選択

2年 職場体験 人セミナーⅣ～Ⅵ

1年 人セミナーⅠ～Ⅲ 職場体験



成果

- ・職場体験学習を中心に据え、3年間の学習プログラムを構築し、実践することができた。
- ・生徒のアンケート結果から「職業についての関心」等の項目において伸びが見られ、生徒たちの職業観が育ちつつある。
- ・『大人とのふれあい』に視点をおき、保護者や地域人材、NPO法人等を活用した授業づくりにより、生徒の職業観が高まった。

課題

- ・学習プログラム等については、常に見直しを図るとともに、研究実践校として他の地域に発信していく必要がある。
- ・小・中・高等学校の連携については、さらに接続を意識した交流の場を設定していく必要がある。
- ・キャリア教育の成果については、継続的に追調査していく必要がある。

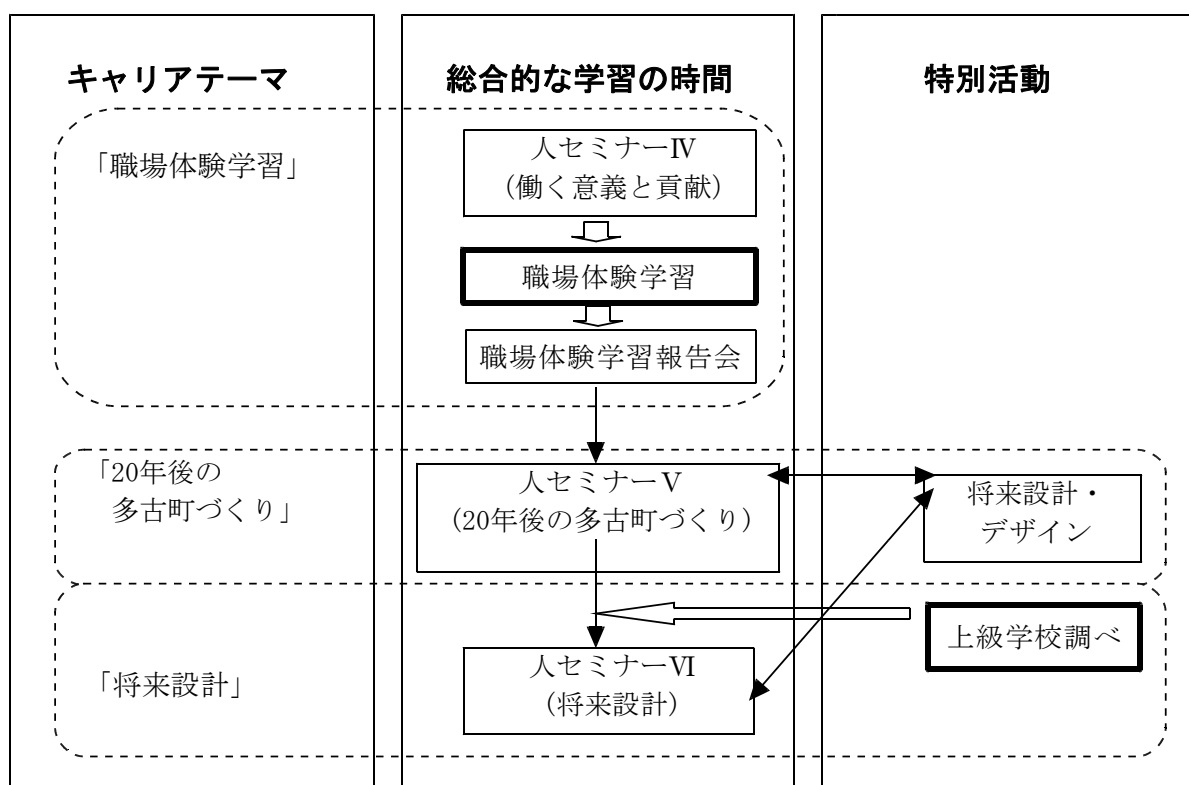
1 キャリアテーマ名 「20年後の多古町づくり」

(1) テーマの内容及び設定理由

本校のキャリア目標を受けて第2学年では、1学期に職場体験学習に向けて、働くことへの意識を高め、意欲をもって臨めるようにするために「人セミナーⅣ（働く意義と貢献）で職業について考えよう」を行った。ここでは、多古ロータリークラブ等、地域の大人から働く意義や大切さ、社会への貢献等について学んだ。その後の職場体験学習では、1年時より積極的な態度で臨むことができた。

2学期以降は、夢や希望をもって上級学校調べができるように、「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」を行う。また、自らの将来の目標を現実的・具体的にもてるように、「人セミナーⅥ（将来設計）で自分の将来を考えよう」を行う。

今回の「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」では、多古町の将来像を立案し、自分たちの考えを地域の大人に発表し、助言を得る。20年後の多古町づくりを構想することにより、さまざまな職種を知る。その上で、社会人としての役割や地域での役割、これから果たすべき役割を考えさせることで勤労観・職業観が高まり、個々に具体的な目標（夢や希望）をもつことができると考え、本テーマを設定した。



(2) 生徒の実態

※記載省略

(3) 指導観

1年時と2年時のアンケート結果を比べてみると、就きたい職業がはっきりと決まっていな生徒が63%から28%に大きく変動した。しかし、就きたい職業がはっきりと一つに決まっている生徒においては変動がない。このアンケート結果より、はっきりと決まっていな生徒の数を更に減らしていきたい。働くことの目的として、自分の才能や能力を発揮するためという考えが大きく減少した。そこで、夢や希望を抱かせるようにしていきたい。そこで、町づくりを立案さ

せる中で、自分を見つめさせ、友達の考えを聞くことを通して改善を図る。

今回、「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」をテーマとした。町づくりは、地域の大人との共通課題であり、身近な親や大人が先生となることで、生徒の興味・関心をより高めていくことができる。また、20年後、生徒は子どもをもつ親の年代になっている。自分の子どもに残したい町づくりという共通のテーマを子と親が考えることで、意欲を持って取り組むこともできる。さらにそのテーマを話し合う過程で、大人が実感している社会の厳しさや、仕事への情熱、ボランティア活動等の話を聞くことで、大人に対する尊敬の念や郷土を愛する心を育てていきたい。

「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」の具体的な取り組みとして次のような5段階に分けプログラムを計画した。

①クラステーマ	個人のイメージマップを作成し、20年後の多古町に必要な事業を考え、それをもとに、クラステーマを決定する。それを受け、クラステーマに合う会社や企業を考える。
②班テーマ	班ごとの会社や企業の事業を精選し、必要な職業を調べ自分が担当する職業を決定する。
③個人テーマ	自分が担当する職業に就くための将来設計と、進路計画を立てる。その職業を通して、どのように多古町に貢献できるか考える。
④発表	①～③で考えた内容を改善するために、地域の大人（ロータリークラブ）に発表し、助言をもらう。具体的な発表形態は、①②は、代表生徒が、③は全ての生徒が行う。
⑤再検討	④で頂いたアドバイスをもとに、20年後の多古町づくりの修正を行う。

キャリア教育の4つの能力を高めるための具体的な手立てとして次のような方法を実践する。

・人間関係形成能力	コミュニケーション能力を養うためにバズセッションやディスカッションなどを取り入れる。自他の理解能力を養うためには、学級や班のテーマを考えさせる。
・情報活用能力	情報収集活動を通し、会社や団体企業を決定させる。
・将来設計能力	20年後の多古町像を考えていくことによって、職業を決定し、将来設計をさせる。
・意思決定能力	20年後の多古町像について自分の考えを適切なものであるか地域の大人(ロータリークラブ)に評価をして頂き、再検討させる。

「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」の活動を通して、夢や希望をしっかりともたせる。また、仮想の将来設計・進路計画を立案させることで、今後の「上級学校調べ」や「人セミナーⅥ（将来設計）自分の将来を考えよう」へとつなげたい。

本時の授業においては、自分の考えを伝えることや友だち・地域の大人の考えを聞くことを通して、人間関係形成能力や意思決定能力を向上させながら、勤労観・職業観を高めていきたいと考える。また、「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来をデザインしよう」のまとめの授業である。

人間関係形成能力を向上させるために、20年後の多古町づくりを行う上で、話し合い活動を通して、学級テーマ（町づくりのスローガン）・班テーマ（事業のスローガン）・個人テーマ（職業人としての町への貢献）を決定させてきた。本時は、職業人に自分の考えを伝え、特にコミュニケーション能力も高めさせる。そこで、生徒たちのコミュニケーション能力の変容が判断できるように、1年次の「人セミナー」からお世話になっている多古ロータリー

クラブのメンバーにゲストティーチャーをお願いした。

意思決定能力を向上させるために、学級を3つのグループに分け、一人一人が必ず発表できるような班編制をし、地域の大人である多古ロータリークラブのメンバーを各学級に4人配置(1人は学級全体、3人は各班)した。また、身近な存在である地域の大人から、人生観を交えた話を聞く中で、働くことの魅力や地域・社会への貢献についての考えを深めさせる。

2 指導計画と評価計画 (13時間扱い)

○	人間関係	自他の理解能力	△	将来設計	役割把握・認識能力
●	形成能力	コミュニケーション能力	▲	能力	計画実行能力
☆	情報活用	情報収集・探索能力	□	意思決定	選択能力
★	能力	職業理解能力	■	能力	課題解決能力

題材 (※は特別活動)	時配	目標および活動内容 (◎は目標・は活動内容)	評価規準
町の将来個人で考える	1	◎多古町の将来像のイメージをもつ。 ・町の将来像についてのイメージマップを個人で作成する。	○職場体験や人セミナーで学んだことから、町の将来をイメージすることができる。
町の将来をクラスで考える	1	◎多古町の将来像のイメージをクラス全体でもつ。 ・イメージマップをもとに、クラスのテーマを決定する。	●一人一人の意見を積極的に交換することができる。
町の産業をまとめる	1	◎クラステーマをもとに20年後の多古町の将来像を考える。 ・町の産業をあげ、分野ごとに分ける。	■自分の職業を通し、20年後の多古町をイメージすることができる。
自分の学びを考えよう(1)※	1	◎多様な資料や友達の考えから学ぶことの大切さについて考える。 ・将来像に合わせた班を編成し、具体的な班テーマを立てる。	☆友達の話の意図をつかみながら話の内容を的確にまとめることができる。
班の産業をまとめる	1	◎班で多古町にどのような産業が必要なのかを話し合う。 ・班テーマを生かすための産業を考える。	☆職場体験学習で学んだことを情報交換しながら班の産業を考えることができる。
自分の将来をデザインしよう(1)(2)※	2	◎職場体験学習で得た知識や経験から町の産業像について話し合う。 ・班単位で立てた目標を具体化するために、自分の職業を考える。	★多古町の産業像を通し、職業について班で話し合うことができる。 □班テーマをもとに自分の担当職業を考えることができる。
個々の職業をまとめる	2	◎個々の担当する職業に合った進路計画を立てる。 ・担当になった職業に就くための将来設計と進路計画を立てる。	★担当する職業を通し、勤労観・職業観を深めることができる。 ▲担当職業に就くための将来設計と進路計画を立てることができる。
自分の学びを考えよう(2)※	1	◎地域で活躍する方々から学ぶことの意義を知る。	★発表内容を考えることができる。

		・地域の大人から話を聞くためのマナーや発表内容を考える。	
人セミナーⅤ (20年後の多古町づくり) 〔本 時〕	2	◎20年後の多古町を考える。 ・班ごとに20年後の多古町についてわかりやすく発表し、地域の大人から助言をもらう。	■ 友達の考える20年後の多古町像や助言者の話を聞き、将来について考えることができる。 ● 目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことなどを相手に伝わるように話すことができる。
人セミナーⅤを振り返る	1	◎20年後の多古町について再検討する。 ・20年後の多古町について、班で再検討をする。	■ 前時に得た助言をもとに、自分たちの考える20年後の多古町を友達と再検討することができる。

3 本時の指導「人セミナーⅤ（20年後の多古町づくり）で将来を考えよう」（11, 12/13）

(1) 目標

- ①自分の考えたことを相手にわかりやすく伝え、相手の考えを正確に理解する。●
②講師の話を聞くことにより、自分の考えた内容が適切であったかを判断する。■

(2) 展開

流 れ	活 動 内 容		
	生 徒	ゲストティーチャー	教 師
クラステーマの発表(7分)	・担当の生徒は簡単なゲストティーチャー紹介をする。また本時の流れの説明をする。 ・学級代表がクラステーマについて相手がわかるように、工夫して発表する。	・本時の流れを確認する。	・授業のねらいを補足説明する。 ・学級での構想を模造紙等で掲示させる。
各班の発表 (講師の質問を含む) (20分 ×2班)	◎「20年後の多古町づくり」を班のテーマに沿って発表する。 ・自分の考えたことを相手にわかりやすく伝え、また相手の考えをしっかりと理解する。● ・講師の話を聞くことにより、自分の考えた内容が適切であったか判断できる。■	・各班の発表に対して課題・質問・アドバイスをを行う。 ・生徒の感じている職業観についてもアドバイスをを行う。	・自分の考えが相手に伝わるよう、相手の反応を確かめながら発表させる。
講師の話 (15分)	・働くことの魅力や社会への貢献について自分の考えを深める。	・働くことの魅力や社会への貢献について話す。	・積極的に発表するよう促す。
まとめ (8分)	・ゲストティーチャーからもらった話から自分の考えがどのように変わったかを含め感想を述べる。 ・代表の生徒は感謝の気持ちを伝える。		・活動の評価を行う。 ・次時の活動予告をする。

多古町立多古中学校